

平成29年度の検討について (危険物施設等の事故に関する調査)

平成29年度は、以下の3項目について調査検討を実施した。

平成29年度の調査検討内容

- 危険物施設の事故に関する調査について
- 危険物施設以外の事故に関する調査について
- 海外の危険物施設の事故事例調査について

平成29年度の検討内容

危険物施設の事故に関する調査について

- 危険物施設における火災・流出事故のうち、腐食疲労等劣化等、経年劣化を原因とする事故の調査を行い、事故の多い設備・機器やそれらの使用年数、危険物施設区分、重大事故の発生状況について調査検討を実施した。

危険物施設以外の事故に関する調査について

- 危険物施設に用いられている設備・機器と類似の設備・機器を用いている他の施設(水道施設等のインフラ・産業施設)における腐食疲労・劣化等による事故事例等について調査を実施した。

海外の危険物施設の事故事例調査について

- 危険物や高圧ガス等、各種危険性のある物質を貯蔵し、又は取り扱う施設の老朽化による事故事例等について、海外で発生した事例の調査を実施した。

危険物施設の事故の傾向について

- 火災事故に関しては、一般取扱所、製造所、給油取扱所での発生件数が多く、流出事故は、地下タンク貯蔵所、屋外タンク貯蔵所、給油取扱所、一般取扱所で多く発生している。
- 定期点検義務がある危険物施設からも事故が多く発生している。
- 流出事故を発生箇所別で見ると、配管が多いが、塔槽類等からも多く発生している。
- 流出事故に係る機器等の使用年数は21年から25年が最も多い。